

未来を拓く科学大好き教育 通信

郷土博物館 特別研究員 指導課 特別指導員
岩波 英一

第13回 青少年のための科学の祭典

日立大会が盛会に開催

12月1日(日)、日立新都市広場マーブルホールと日立シビックセンターを会場に、科学の祭典が開催されました。今年は、第1回大会を除いて入場者数の新記録を達成しました。参観者・関係者を加えますと、5200人を超える数です。校外学習の授業として助川中学校の全校生徒、毎年参加している会瀬元気っ子村の児童たちが参列した開会式で始まり、終了の午後3時30分までの間、どのブースも満員の盛況でした。茨城大学の学生や先生方、県内にある高校や中学の関係者、科学の祭典を楽しみにしている科学愛好者グループや企業、医学関係者、農林・水産試験場等の公的機関、動物園や博物館関係者、消費者団体などと、幅広い層の出展者が集まりました。

内容も、物理学・化学・生物・地学・天体と、自然科学の領域がすべて入っていて、子どもたちの興味・関心が広がっていたと思います。また、科学館の配慮で、科学館や天球劇場の無料招待券が学校を中心に配布されたりしていて、親子連れや子どもたちのグループで、とてもにぎやかな科学の祭典になりました。あるブースでは、食事中のためブースを閉鎖していたら、たくさんの方が順番取りのため並んでいました。時間になっても始まらないので、本部まで問い合わせが来るほどの人気でした。茨城県自然博物館の三葉虫やアンモナイトのレプリカ作りは、整理券を発行して対応したそうですが、午前中のうちに午後の部の整理券が完了するほどの人気だったそうです。日立理科クラブの理数アカデミーの生徒たちによるポスターセッションでは、かなり高度な内容に、大人の参観者たちから、「すごい研究をしていますね。」という感想が聞かれました。

茨城大学名誉教授の田切美智雄先生の出展した、「カンブリア紀の生き

物アノマロカリスを作ろう!」では、助川小と宮田小の児童たち9名がスタッフとして大活躍していました。宮田小6年・大谷梨紗さんの感想です。「スタッフの仕事は大変でしたが、教えることは楽しかったし、勉強になりました。」日立一高附属中の生徒たちも「スーパーボールを作ろう!」のスタッフとしてフル回転するなど、小中学生の活躍が日立大会の特色の一つとなっています。終了後の後片付けでは、たくさんの机やいす、

展示ボードなどが短時間の中できれいに整頓されていく光景は圧巻です。出展者や関係者の協力が日立大会の名物になっていることを改めて感じました。今回の科学の祭典に、ご協力いただいた協力団体の援助も含めて、新都市広場マーブルホールで開催される日立大会のすばらしさと底力を実感した一日でした。



茨城県自然博物館の展示



小学生スタッフ大活躍



かみね 動物園のブース



茨城大学工学部のブース